

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	ミュージカル
----	----	----	--------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしやおぺらしあたーこんにやくざ 有限会社オペラシアターこんにやく座		団体ウェブサイトURL https://www.konnyakuza.com
	代表取締役 萩 京子		
制作団体所在地	〒 214-0021	最寄り駅(バス停)	JR南武線「宿河原」駅
	神奈川県川崎市多摩区宿河原7-14-1		
電話番号	044-930-1720		
ふりがな 公演団体名	オペラしあたーこんにやくざ オペラシアターこんにやく座		団体ウェブサイトURL https://www.konnyakuza.com
	代表取締役 萩 京子		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	1988年 6月 法人設立 (1971年 4月 団体創立)		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 萩京子 取締役 大石哲史	音楽監督・座付作曲家/萩京子、歌役者38名、制作7名、事務3名。加入条件:団体の活動に全面的に参加できること。歌役者はオーディションを、制作や事務は面接を行なう。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	土居 麦
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	土居 麦
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	doi@konnyakuza.com		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>1966年に東京芸術大学に発足した「こんにやく体操クラブ」を母体として、1971年、オペラ小劇場こんにやく座創立。日本においてオペラを普及させるために欠くことの出来ない条件として、日本語の明瞭な歌唱表現を追求しながら、小・中・高校生を主な対象とした全国巡回公演を開始。1985年4月にオペラシアターこんにやく座と改名。1988年6月、有限会社オペラシアターこんにやく座設立。 創立以来、林光(故人)、萩京子作曲のオリジナルオペラを数多く創作、上演している。活動は国内に留まらず、過去7ツアー延べ19カ国の海外公演も行なっている。</p> <p>【受賞】 1976年 ウィンナーワールドオペラ賞(現ジローオペラ賞) 1989年 ジローオペラ賞特別賞、文化庁芸術祭賞、音楽之友社賞 1992年 子ども舞台芸術・新作フェスティバルキッズ&アーツアンサンブル賞 1997年 山本安英の会記念基金賞、三菱信託音楽賞 2000年 『ロはロボットの口』の成果により、東京都教育委員会優秀賞、(社)日本演劇協会賞、(財)都民演劇賞 2002年 イーハートブ賞(多数の宮沢賢治作品をオペラ化した功績に) 2014年 小泉文夫音楽賞 2021年 三菱UFJ信託音楽賞奨励賞</p> <p>【その他】 1998年より継続して文化庁の現・文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業)に採択される。また本巡回公演事業に2003年より継続し採択されている。</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>2014年度から2023年度までの10年間における、本巡回公演事業を除く学校公演は、小学校552ステージ(199千人)、中学校26ステージ(11千人)、高校188ステージ(119千人)、その他(中学高校一貫校、幼稚園保育園、特別支援学校など)87ステージ(35千人)、合わせて853ステージ実施。 オペラ『ロはロボットの口』は1999年初演以来、おもに小学校学校公演や子ども・おやお劇場公演、また二度の海外ツアーなど、全609ステージを行ない、延べ225千人の観客にご覧いただいている。</p> <p>(直近/2023年度実績 *本事業のぞく)</p> <p>【学校公演】 オペラ『さよなら、ドン・キホーテ!』 16校 16ステージ オペラ『森は生きている』 3校 4ステージ オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』 10校 16ステージ オペラ『タンゲーまほうをかけられた舌ー』 14校 29ステージ オペラ『あん』 1校 1ステージ コンサート「こんにやくざのおんがくかい」 6校 10ステージ</p> <p>【学校公演以外(自主公演・鑑賞団体・一般公演など)】 オペラ『浮かれのひょう六機織唄』 自主公演(東京) 6ステージ オペラ『神々の国の首都』 自主公演(東京) 12ステージ オペラ『さよなら、ドン・キホーテ!』 全国4か所 6ステージ オペラ『森は生きている』 全国24か所 36ステージ オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』 全国9か所 12ステージ オペラ『タンゲーまほうをかけられた舌ー』 全国4か所 5ステージ オペラ『あん』 全国5か所 5ステージ オペラ『ロはロボットの口』 兵庫、高知 2ステージ コンサート「こんにやくざのおんがくかい」 全国4か所 4ステージ</p>		
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>1984年～2022年までに計30ステージ、約4200名の児童生徒が鑑賞している。 作品は『森は生きている』、『ロはロボットの口』、『ピノッキオ』など。 その他コンサート企画などの依頼を受け、実施している。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=p88lFgxE4w</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>
		<p>PW:</p>	<p>なし</p>

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 オペラシアターこんにゃく座】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	-
企画名	オペラ『口はロボットの口』			
企画のねらい	<p>「こどもたちと、こどもだったすべてのおとなたちに贈るSFファンタジーオペラ」をキャッチコピーとした本作は、冒険や出会いを通じて、主人公のロボットに血の通った感情が芽生えてゆく成長の物語です。心優しく、大切に思う人のために一生懸命なテトの姿に、子どもたちは自身を重ね、他人を思いやることの大切さや困難に立ち向かう勇気への気づきがあると期待します。</p> <p>昨今ますますAI(人工知能)の発達を身近に感じる機会が多くなってきました。将来、関わりが密になっていくであろう人間とAI(ロボット)との共生に私たちはどのように向き合っていくのか、ひいては人間同士が自己と他者との違いを認め、友情や愛情を育む豊かな関係性の発見と理解を、ワークショップや本公演を通じ、子どもたちに促していく所存です。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>オペラ『口はロボットの口』は1999年初演。萩京子作曲によるオペラシアターこんにゃく座代表演目。初演以来、小学校公演や子ども・おやお劇場公演を中心に展開。さらに言葉の壁を越えて国際交流基金主催ツアー(インドネシア・タイ/2001年)、日韓友情年事業(韓国/2005年)で海外公演も実施。平成12年東京都優秀児童演劇選定において、東京都教育委員会優秀賞、(社)日本演劇協会賞、(財)都民演劇賞の3賞を受賞。</p> <p>物語は、歌い手8人が計30以上の役を演じながら、多層な場面構成により展開していきます。鄭義信の「ことば」と萩京子の「音楽」と魅力的な登場人物たちによって、笑って、泣いて、ときどきしながら、自分にとって一番大切なものを探す、旅のお話でもあります。困難に出会っても、負けずにまっすぐと前を向く主人公の視線に、(舞台上にも登場する)できたてのパンを食べたときのよう、心が温かなもので満たされてゆくオペラです。</p> <p>～ものがたり～</p> <p>ウェストランドのパン工場で働くパン製造ロボット‘テト’はパン作りが得意で大好き。ところがある日、作れるパンの数が減ってきてしまいました。テトは体を直してもらうため、自分を作ったドリトル博士の住むイーストランドを目指して旅立ちました。七日七晩歩きイーストランドにたどり着いたテトは、そこで‘ココ’という女の子と出会います。ロボットを目の敵にする魔女ノーマが支配するイーストランドで、テトはパンを作ることでココの窮地を救います。テトのパンは人々を幸せにしていますが、このパンのおいしさの虜になったノーマの娘‘ジーン’の策略よって、テトとココはふたたび窮地に立たされます…。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>本公演の際と一緒に歌を歌ってもらいます。観劇対象の児童全員を対象とします。</p> <p>1/劇中歌「テトのパンはあ」を歌う場面で、出演者と一緒に歌います。</p> <p>2/劇中歌「たったひとつとくいなこと」を歌う場面では、リズムに合わせて手拍子してもらいます。</p> <p>3/アンコール曲として「テトのパンはあ」をもう一度最後に一緒に合唱します。</p> <p>学校の希望により、仕込やバラシの様子の見学、また給食時間を一緒に過ごす工夫をします。</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	450名(一緒に合唱します)	
		鑑賞人数目安	450名	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>オペラ『口はロボットの口』</p> <p>作曲:萩京子、台本・演出:鄭義信、振付:伊藤多恵</p> <p>【プログラム構成】</p> <p>1. 挨拶</p> <p>2. オペラ『口はロボットの口』第1幕(前半) (休憩10分)</p> <p>3. オペラ『口はロボットの口』第2幕(後半)</p> <p>4. 出演者と一緒に歌おう！(ワークショップで練習した歌を合唱)</p> <p>※上記のほか意見交換の場や仕込見学など観劇以外の交流は、学校からのご要望、ご相談に可能なかぎり対応します。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 105 分</p>			
出演者	泉篤史、入江茉奈、佐藤敏之、岡原真弓、沖まどか、北野雄一郎、中村響、小田藍乃(以上オペラシアターこんにゃく座歌役者)、湯田亜希(ピアニスト・フリー)			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>泉篤史(テト役)…オペラシアターこんにゃく座歌役者(2015年より)。新潟大学卒。『口はロボットの口』シオン役、『森は生きている』四月の精・カラス役、『リア王』エドガー役など数多くのオペラに出演。</p> <p>入江茉奈(ココ役)…オペラシアターこんにゃく座歌役者(2020年より)。エリザベト音楽大学大学院修了。『森は生きている』五月の精・ウサギ役、『神々の国の首都』よし子役、『リア王』コーデリア役など出演多数。</p> <p>湯田亜希(ピアニスト)…フリーのピアニスト。東京音楽大学器楽科卒業。東京コンセルヴァトワール尚美ディプロマコース修了。オペラシアターこんにゃく座の多数のオペラに関わるほか、音楽とパフォーマンスの融合をめざすアンサンブル・ボアール、篠笛とピアノによるユニットSynopiaでも活動。</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 9 名	運搬	積載量:	4 t
	スタッフ: 7 名		車長:	8.9 m
	合計: 16 名		台数:	1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		-	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～12時	13時15分～15時	10分	15時～16時30分	16時30分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月
	20日	0日	0日	0日
	10月	11月	12月	1月
	0日	0日	0日	0日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計

鑑賞時の児童生徒の座り方 イメージ図

体育館の舞台

楽屋(控室)として利用します

舞台袖 通り抜け

設置舞台

10.8m

14.4m

ピアノ設置位置

鑑賞位置

縦列

横列

2m [最低1m空ける]

パネル

黒幕

上演エリアは体育館フロアとなります。横方向に設置することを基本とします。

※並び方の参考にして下さい。
横列は20人～30人ほど、縦列は8列～12列ほどで座っていただくことが多いですが、児童数に応じて柔軟にお考え下さい。

基本的にフロア(床)に直接座ってもらいますが、後方2列は椅子席にし、見やすさの確保をします。

※舞台と鑑賞位置は、体育館への児童の入口や分電盤の位置によって、左右逆となる場合がございます。個別にご相談して下さい。

著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	台本著作権、音楽著作権
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	使用(上演)許諾取済
		台本：鄭義信 作曲：萩京子		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 オペラシアターこんにやく座 】

ワークショップのねらい	<p>「歌」は、生活の中やあるいは音楽の授業など、子どもから大人まで自然と耳にしたり、歌ったりと、誰もが気軽に触れ、また表現できる芸術のひとつです。いっぽう、オペラやミュージカルでは「歌」が重要な舞台の要素となっています。舞台上上がる、演じるという行為に初めて取り組む際は、少しドキドキしてしまうものですが、その取り組みをワークショップ(歌の練習)を事前に行なうことによって、子どもたちが登場人物の一人になりきって、本公演の舞台鑑賞のイメージを膨らませる効果を期待します。</p> <p>歌われる「言葉」は、具体的なイメージを持っているか持っていないかによって、歌の表現に大きな違いをもたらします。舞台鑑賞の事前と事後とで、同じ歌でも表現の違いに子どもたちが気づきかけを与え、歌唱のみならず、自己表現の多様性にまでその探求が及ぶことを期待しています。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	450名まで
ワークショップ実施形態及び内容	<p>標準:90分</p> <p>事前に劇中歌の楽譜と音源を渡し、音楽の授業での練習、また校内放送などで曲に親しんでいただきます。当日は次のプログラム進行となります。(途中10分休憩あり)</p> <p>①劇団紹介を兼ねて歌の披露・・・こんにやく座は歌う劇団です。オペラの上演とともにステージを重ねているコンサートなどで歌う数あるレパートリー“ソング”から1曲歌います。音と言葉との結びつきが自然と耳に馴染む曲を選曲しています。</p> <p>②劇団名の由来となっている「こんにやく体操」の体験・・・動きが独特で、すぐに真似をしてみたいくなる「こんにやく体操」を導入に行なうことで、初対面の講師と子どもたちとの距離を一気に縮めるねらいを持ちます。無駄な力を抜きながらまっすぐ立つことを意識した体操から、こんにやく座が培ってきた日本語を歌う方法を子どもたちに分かりやすく伝え、各自が本来持っている声を引き出す準備運動を行ないます。</p> <p>③「オペラ」とはどういうものか、“演劇”と“オペラやミュージカル”の違いは何か、実演をまじえて解説します・・・短いひとつのシーンを、演劇で台詞だけで演じる場合と、オペラやミュージカルで台詞に歌がある場合の両パターン実演し、その違いを解説します。初めて目の当たりにする子も多いであろう“オペラ”への理解を促し、またこの後の時間で実践する、「歌いながら演じる」ことのイメージを膨らませてもらいます。</p> <p>(休憩10分)</p> <p>④オペラのテーマソング「テトのパンはあ」を一緒に歌ってみましょう・・・言葉遊びの要素も含んだ親しみやすい歌です。「あ」という一音にいろいろな表現方法があることを伝えながら、メロディーと歌詞を覚えていきます。児童生徒が本公演に参加する意識をしっかりと持ち期待を高めてもらえるように、解説やシーンのイメージを添えながら実践していきます。劇中歌「テトのパンはあ」が歌われるのは、主人公テトが、ココとその父であるパン屋のエドのピンチを救うために得意なパン作りを披露する場面です。ロボットと人間たちのあいだに信頼が生まれ、明日へと向かう「希望」を歌で表現しています。歌っていてうきうきしてくる気持ちにうまく振りをつけられるよう指導していきます。</p> <p>⑤質問コーナー・・・ワークショップを体験して感じたことや疑問など、発表、そして講師との言葉の交流の時間を設けます。疑問を抱いたことをそのままにせず、また繰り返しの確認を言葉で行なうことで、理解の定着を計ります。また、この質問の時間の中で、例えばどのようなロボットがいたら楽しいか、そのようなロボットと共存する社会とはどのようなものなのか、子どもたちの視点で語ってもらい、将来への希望や夢を育む創造を広げる時間にもつなげていきたいと思います。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>特別支援学校でのワークショップは基本的に上記内容と変更なく実施可能ですが、事前打ち合わせで学校との相談の上、子どもたちの習熟レベルに合わせて対処し、柔軟に進め方を決めていきたいと思えます。</p> <p>根本的な考え方として、特別支援学校(学級)に在籍する子どもたちにも普通学級の子どもたちと同様に芸術に触れる機会を提供できるように工夫していきます。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名

オペラシアターこんにゃく座

】

①本事業に対する取り組み姿勢

オペラシアターこんにゃく座は、創立以来、〈新しい日本のオペラの創造と普及〉という理念を持ち、レパートリーを増やし、学校公演を行なってきました。「オペラ」という手法で舞台芸術の多様性を表現するなかで、豊かな想像力と感受性を持つ子どもたちに、親しみを持って舞台を楽しんでもらう目的から、日本語の歌唱方法、そして演劇と音楽両面を楽しめる作品作りを追究してきました。年代を問わず鑑賞の機会を共有し、感想や意見を交わすことが、さまざまな価値観を認め合う社会につながると信じています。

しかし子どもたちが舞台芸術に触れる機会は、学校鑑賞の縮小化に伴い、限られたものになってきています。鑑賞行事を取りやめた学校、また行事を確保していたとしても、演目の選択肢の少なさを課題として抱えている学校が数多くあるのが現実です。そうした情勢のなか、どの地域であっても、児童数の多寡に関わらず、鑑賞の機会を公平に提供する本事業の趣旨は、前述した私たちの理念に大いに適うところでもあります。

こんにゃく座は2003年から本事業に携わっていますが、ワークショップを経て本公演に臨むステップが、鑑賞の機会をより有意義なものへと飛躍させ、学校教育の一環としての性格を高めていることを確信しています。教師と児童生徒が普段過ごす時間を、第三者であるワーク講師や出演者が共有することで、新たな関係性が生まれ、多面的なコミュニケーションの機会を提供することも一つの目的です。そして何より、児童生徒がプロの実演家と舞台で共演する目的を持ち、その過程に立ち会うことで、子どもたちの緊張や興奮、喜びといった表情一つ一つの変化を彼らの成長の発露と感じ、本公演での成果につなげていくことを本事業の使命と心がけています。

子どもたちが心待ちにする本公演で、普段使い慣れた体育館を一日だけのオペラハウスへと変えます。子どもたちに鑑賞の機会が日常生活のすぐ近くにあるという意識を持ってもらうと同時に、その体育館が特別な空間に生まれ変わったことに対する驚きと発見が、子どもたちの創意工夫の精神を養い、舞台芸術への興味、関心を高めてもらうことを願います。本事業の体験を通じ、子どもたちが将来、自らの意思で劇場へと足を運び、鑑賞を楽しむ観客となることを、そしてこうした観客の育みこそ日本の豊かな社会への発展となることに希望を寄せ、その第一歩となる本事業に積極的に取り組んでいきます。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

実施校にはワークショップ前にも資料の送付や電話での補足説明など、ご担当の先生をはじめ、校長・教頭先生などとも本事業の趣旨をまず確認し合い、単なる鑑賞機会に留めないように、ご理解、協力いただけるよう計っています。その際、私たちから鑑賞の機会をどのように考えているか説明を加え、また先生方からは学校で実施してきた鑑賞行事に対するこれまでの経緯や、今回の応募のきっかけなどを伺うことで、児童生徒に本事業を通じてどのような体験をさせてあげたいかという方向性を確認していきます。学校ごとの地域性やカリキュラムの進度などにより、通常のプログラムからアレンジを加えたほうが良いと判断される場合は、こうした早い段階で先生方と相談していきます。

ワークショップ、本公演のタイムスケジュールほか、分かりやすくプリントを用意し、事業の流れを説明しています。ワークショップの前に子どもたちに歌を覚えてもらう必要があるため、音源や楽譜などを用意し、打ち合わせの際は可能であれば音楽専科の先生にもお立ち会いいただき、直接説明を重ねることもあります。また、ワークショップで学校を訪問するなかで、本公演に向けた事前調査を入念に行ない、本公演の運行に支障が出ないように努めています。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫